



まち歩き  
ガイドブック



# 城下町高田 まち歩きマップ



高田城下図 上越市立高田図書館  
元文2年(1737)に描かれた城下町の様子

## 城下町高田の範囲

このガイドブックでは、城下町高田の範囲を、南北はそれぞれの一里塚(南は伊勢町、北は陀羅尼町)、東は関川、西は寺町までとしています。

上記絵図の赤線の範囲は右ページの現在の地図の範囲に当たります。

- 地図記号
- 駅
- バス停
- 駐車場
- 文化施設
- 寺院
- 神社
- 城
- 公園
- 病院
- 学校
- 郵便局
- 銀行
- 宿泊施設
- 交番
- トイレ
- Wi-Fi
- 歴木のある道
- 高田本町商店街
- 朝市通り



# 越後の都 上越市



村上

新発田

高田藩の領地  
松平忠輝時代

※村上氏(村上)、溝口氏(新発田)は与力大名よりき

## 雪月花の城下町 高田

今からおよそ1300年前、国府がおかれた上越市は、越後国（新潟県）の政治・経済・文化・軍事の中心としての役割を担いました。

以来、越後国府の歴史と伝統は、上杉謙信公の越後府中と春日山城、豊臣秀吉の重臣、堀氏の福島城へと受け継がれ、さらに徳川幕府が天下普請で築き、家康の六男、松平忠輝公を城主に据えた高田城に結実しました。

徳川の城ともいえる高田城は、図に示したように、越後一国と長野県北部を領地とする高田藩の中核で、石高は、60万石（一説に75万石）を誇る全国でも屈指の雄藩でした。

城下町には町家や雁木、寺町などの街並みが整えられ、江戸時代後期に『北越雪譜』を著した鈴木牧之は、高田を「ここは北越随一の市会なり。商工軒をならべ百物備ざることなし」とその繁栄ぶりを紹介しています。400有余年の歴史を持ち、四季折々のロマンあふれる「雪月花の城下町」高田は、訪れる人にその魅力を語り続けています。

### 高田の歴史

西暦	出来事
1614	松平忠輝 福島城を廃し、高田城に移る
1616	酒井家次 高田城主となる
1618	松平忠昌 高田城主となる
1624	松平光長 高田城主となる
1665	高田地震が起きる
1679	越後騒動が起こる
1685	稲葉正通 高田城主となる
1701	戸田忠真 高田城主となる
1710	松平定重 高田城主となる
1741	榊原政永 高田城主となる
1861	榊原政敬 高田城主となる(最後の高田藩主)
1868	北越戊辰戦争 高田藩は新政府軍として戦う
1871	廃藩置県により高田藩を高田県とし、後に柏崎県となる
1873	柏崎県が新潟県に合併される
1908	陸軍第13師団が入城
1909	高田城跡に2200本の桜が植樹される
1911	レルヒ少佐によるスキー指導 高田市が誕生
1913	高田開府300年祭
1926	第1回観桜会開催
1964	高田開府350年祭
1971	高田市と直江津市の合併で上越市が誕生
1993	三重櫓を復元
2002	極楽橋を木橋として復元
2005	14市町村の合併で新「上越市」が誕生
2014	高田開府400年祭
2018	歴史博物館開館
2020	高田公園が高田城址公園に名称変更

# 高田城



## 三重櫓

高田城のシンボルであった櫓。発掘調査や江戸時代の古文書や絵図を参考に、平成5年(1993)に復元したものです。櫓の高さは14.5m、屋根に葺いた瓦は24,380枚にもなります。築城時は二重櫓でしたが、高田藩の最盛期となった松平光長の時に三重櫓に改築されました。

## 本丸の土塁と内堀

徳川一門の城にふさわしく、本丸の土輪は全国でも群を抜いて大きかった高田城。その土塁も、総延長約1km、高さ約10mと雄大なものです。藩主の居所であり政治をつかさどった本丸御殿は明治3年(1870)の火災で焼失しましたが、往時の威容は歴史博物館のジオラマとバーチャルリアリティで再現しています。



高田城は、慶長19年(1614)に、徳川幕府による国家事業である「天下普請」として築かれ、徳川家康の六男である松平忠輝を城主に据えました。

築城工事には家康の命で、加賀藩主前田利常や、もと春日山城主であった米沢藩主上杉景勝など13の有力大名が割り当てられ、忠輝の義父である仙台藩主伊達政宗が、普請総裁として自ら陣頭指揮をとりました。その結果、わずか4か月足らずで越後一国と北信濃までの一部をも治める巨大城郭が誕生したのです。

高田城には、石垣や天守閣がありませんでした。これはこの城が戦や権威の象徴ではなく、北国街道上の要衝である越後を治める広大な城下町を従える巨大行政府であったことを物語っています。

高田城は、朝日が昇るがごとく輝く城、高陽城という雅名をもち、また、城地の形がほら貝に似ているため螺城とも呼ばれました。

約72ヘクタールの広さをもつ内郭は、本丸・二の丸・三の丸に区切られ、土塁と堀をもって固め、雄大な城を形づくっています。本丸御殿に入るには、内堀にかかる極楽橋を渡って、蹴出門(一の門)から枳形に進みます。左右の土塁にはかつての多門櫓(長屋で城壁も兼ねる兵器庫)がありました。枳形内の右手にある二層の本城御門(二の門)をくぐると、防備と美観を備えた御殿が現れます。

## 極楽橋と本丸枳形

極楽橋は、二の丸から本丸へと続く、内堀にかかる木橋です。陸軍入城時に土橋に切り替えられましたが、平成14年(2002)、発掘調査や古文書をもとに木橋に復元しました。極楽橋の先の本丸正面入口には、敵の侵入を防ぐ枳形が築かれています。その規模は幕府の天下普請にふさわしいものです。平成26年(2014)の発掘調査では、徳川家の三葉葵紋の鬼瓦が出土しています。



外郭は、東は関川、南は百間堀・青田川、西は青田川、北は旧関川跡などに囲まれた地になっています。

高田城は、折衷式という分類に入る構造でした。本丸を中心に、その周りを二の丸で囲み、三の丸を部分的に付け足す形です。菩提が原の地を中心に、川跡を外堀に利用して内郭が出来たので、この形になりました。内郭は、殿様の御殿のある本丸、武具蔵・火薬庫・番所などが置かれた二の丸、米蔵などがあつた三の丸が、高い土塁と深い堀で区画されて造られました。天守閣は造らず、南西隅の本丸土塁上の櫓を「御三階」と称して城のシンボルとしました。

本丸の出入口は、通常出入りする本城御門(南門)、通常使用されない東不明門(東門)、北不明門(北門)の三か所あり、南門と東門は枳形でした。現在見られる西側の通路は、明治41年(1908)に土塁を切って道にしたもので、江戸時代は連続した土塁でした。外郭から本丸へは、大手橋を渡って大手門から三の丸を通り、濁堀を渡って二の丸へ出て、さらに内堀を渡って南門から入る複雑な構造でした。

## コラム 松平忠輝

松平忠輝は文禄元年(1592)、徳川家康の6男として生まれ、8歳で伊達政宗の娘五郎八姫と婚約。慶長15年(1610)、堀氏に替わり越後福島城主となりました。同19年(1614)、高田城を築き入城しました。



## 4 鬼門

本丸北東の角は鬼門にあたることから、櫓や檜台を設けず土塁も直線にせす屈折させました。直線的な西側土塁と対称的につくりとなっています。土塁の高さも西側より高く、堅固な守りとなりました。



## 5 外堀

外堀は、高田平野最大の河川、関川の旧流路を利用して築かれました。幅は広いところで約130mもあり全国屈指の規模を誇ります。現在残っているのは城の北・西・南堀で、夏になると東洋一といわれる蓮が群生します。

## 6 二の丸土塁の松

西堀沿いの小山の上に「根上がり」の松がそびえます。ここは二の丸土塁の跡で、かつてその根を覆う高さまで土塁があつたことを物語っています。また、かつて外堀に面して城を囲っていた土塁は陸軍入城時に削平されましたが、唯一の名残りがこの松と小山なのです。



上越市立歴史博物館のジオラマ



## 1 上越市立歴史博物館

「越後の都」をテーマに、安土桃山時代以降の地域の歴史を解説。春日山城・福島城・高田城の三城の変遷やその時代背景、その後の地域の発展の様子を学べます。新装したカフェコーナーやミュージアムショップがあり、お休みどころとしてご利用いただけます。

- 〒 本城町7丁目
- ☎ 025-524-3120
- 🕒 4~11月/9:00~17:00  
12~3月/10:00~16:00
- 🗓 月曜日（月曜日が祝日のときは翌日）、祝日の翌日、年末年始
- 💎 一般510円/小・中学生、高校生260円  
（高田城三重櫓との共通入館券 一般620円/小・中学生、高校生320円）



フォトポイント



西堀にかかる赤い橋と自然の色のコントラストが美しい



## 2 小林古径記念美術館 (2020年10月3日オープン)

小林古径と上越市ゆかりの作家の作品を中心に紹介しています。美術館の敷地内には小林古径邸本邸（国登録有形文化財）と復元された画室があり、作品とともに古径の芸術性や人となりを感じることができます。

- 〒 本城町7丁目1
- ☎ 025-523-8680
- 🕒 9:00~17:00（冬期間に変更あり）
- 🗓 月曜日（月曜日が祝日のときは翌日）、祝日の翌日、年末年始、このほか展示替え臨時休館あり
- 💎 一般510円/小・中学生、高校生260円（このほか年間観覧券あり）



### コラム

#### 小林古径 (1883~1957年)

高田土橋町（現上越市大町）生まれ。「竹取物語」「清姫」「髪」などに代表される作品は、研ぎ澄まされた線描の美しさとともに清澄な色彩感覚が作品に高い品格を与えています。昭和25年（1950）には文化勲章を受章しました。

# 高田城址公園



上越市にゆかりのある、佐藤忠良などの芸術家の作品16基と、岩野勇三ブロンズコーナー

お堀一面にはすが咲く。涼風に吹かれながらの散策がおすすめ!

お堀を眺めながら ゆっくりコーヒーを! 大きなだれ桜も見どころ!

ここから金谷山がよく見える。

## 5 館共通入館券

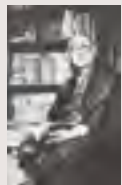
歴史・文化に関連する市公共施設の、お得な共通入館券を販売します。ぜひ、ご利用ください。

- 対象/上越市立歴史博物館、高田城三重櫓、小林古径記念美術館、日本スキー発祥記念館(P32)、坂口記念館(P37)
- 販売、2020年10月3日から（小林古径記念美術館のオープンに合わせて）
- ※詳しくは上越市文化振興課まで ☎025-526-6903

### コラム

#### 小川未明 (1882~1961年)

高城村（現上越市幸町）生まれ。数多くの童話作品を創作し、「日本のアンデルセン」とも呼ばれ、児童文学の近代化や地位の向上に貢献。「赤い蠟燭と人魚」「野ばら」などの代表作を生み出し、昭和28年（1953）には文化功労者に選ばれました。



## 3 高田城三重櫓

高田城跡は、新潟県の指定史跡となっており、その上に建つ高田城三重櫓を再建するにあたっては、ち密な考証を行いました。江戸時代の絵図や古文書の検討、さらには発掘調査など詳細な調査・研究を行い、設計に活かしました。

規模は、稲葉正通時代の「高田城図関尺」にある数値とほぼ同様に、外観は松平光長時代の「高田城内絵図」を参考としました。

- 〒 本城町6丁目1
- ☎ 025-526-5915
- 🕒 9:00~17:00
- 🗓 月曜日（月曜日が祝日のときは翌日）、祝日の翌日、年末年始（このほか冬期臨時休館あり）
- 💎 一般310円/小・中学生、高校生160円  
（歴史博物館との共通入館券 一般620円/小・中学生、高校生320円）



フォトポイント

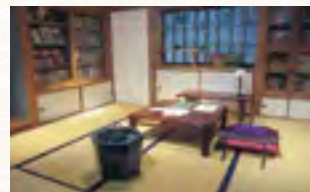


満開になると桜のトンネルになるさくらロード

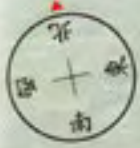
## 4 小川未明文学館

小川未明の業績と作品をはじめ、生い立ちや人となりなどを紹介しています。未明の書斎を再現した「未明の部屋」では、実際に使用していた文机などがあり、童話が生まれた場所の雰囲気や佇まいを感じることができます。

- 〒 本城町8丁目30（高田図書館内）
- ☎ 025-523-1083  
025-526-6903（上越市文化振興課）  
電話対応可能時間：8:30~17:15（土・日・祝日及び年末年始は除く）
- 🕒 火曜日~金曜日/10:00~19:00（6~9月は20:00まで）  
土・日・祝日/10:00~18:00
- 🗓 月曜日（月曜日が祝日のときは翌日）、祝日の翌日、第3木曜日、年末年始
- 💎 入館・見学は無料



# 城下町



- 侍屋敷
- 与力・足輕町・中間町
- 寺屋敷
- 町人町

## 武家町と町人町・寺町

図で見るように、高田城の周りに武家町が造られました。現在使われている東城・西城・南城・北城の町名は城からの方角を示し、大手町や大町の一部とあわせ、武家が住んだ地域でした。高田藩主は八家が入り替わり、その家臣の多少により武家町の規模も変わりましたが、町人町の面積よりはるかに広がったことがうかがえます。

一方、町人町は、現在の南本町・本町・北本町・東本町・仲町・大町の各通りに整然と造られました。高田城下町は、およそ40の「個別町」から構成されていました。

武家町と町人町との標高を比べると、全体的に町人町の方が水害を避けやすかったといわれています。

また、西側には寺院を集めて寺町を形成するとともに街道の出入口付近にも寺院を配置しました。

## 城下の役割

高田の城下町は、地理的・経済的条件などを考え計画的に造られました。

城下町を発展させるために、街道が城下を巡るように整備し、その街道に沿って、交通・運輸にかかわる町や、商業・流通にかかわる町などを配置しました。

さらに、専門的技術を持つ職人たちの町も配置するなどして、各町が城下都市のそれぞれの役割を持てるよう成立させたのです。

その役割を保護・統制したのは大名でした。特定の業種の営業を特定の町にのみ認める特権を与えたのです。例えば小町三町（本町4～6丁目）は塩から雑貨に至るまでさまざまな品物を扱う問屋町とし、問屋を通さないと信州出入荷物が流通できない仕組みになっていました。また、当時の重要な食品である魚類の取り扱いには田端町だけに限られていました。武家町に隣接する所には、武士の生活に必要な職人が住みました。各個別町には名主がいて、各町の自治にあたりました。

北国街道

# 北国街道

●文化7年 (1810)

江戸幕府は、中山道追分宿から分岐し、高田を経て出雲崎に至る北国街道を五街道に次ぐ重要な脇往還（五街道以外の主要道路）として重要視していました。幕府直轄の佐渡鉱山の金銀を安全に江戸まで輸送するための往還だったからです。松平忠輝は、忠輝の付家老として幕府から派遣されていた大久保長安らとともに北国街道の整備に着手します。それにより、佐渡の金銀を江戸へ運ぶ重要な街道が確保されたと同時に、誰もが安全に往来出来る交通網が整備され、加賀藩前田家をはじめ、その他北陸や越後の諸大名が参勤交代でこの街道を通行しました。

## コラム 旧町名の辻標

北国街道沿いには、高田開府400年をきっかけに歴史的な旧町名と解説文を記した辻標が40本以上設置されました。まち歩きしながら探してみてもいい。



鈴木魚都里の「東都道中間絵図」  
文化7年 (1810)  
高田城下と江戸日本橋間を描いたもの。他の道中絵図の多くが日本橋を起点に描かれているのに対し、この絵図は高田から江戸に向かっているのが特徴です。  
(上越市公文書センター 提供)

●現在



## 町家

間口が狭く、奥行き長い家の造りを「町家造り」といい、狭い土地に多くの町民が住むためと間口の幅で税が決まったことから造られるようになりました。雁木から戸を開けて家に入ると約1m幅の土間が奥まで一直線に通る、その片側にミセ、チャノマ、ザシキ（仏間）、中庭、蔵と続き、台所、風呂、便所は土間の奥の中庭に面して並んでいます。チャノマは吹き抜けで、その間に階段と渡り廊下があり、オモテニカイとウラニカイに分けられます。両隣りの家とは壁一つで接しているため、吹き抜けに天窓が取り付けられ、明かり採りやいろいろの煙出しになっています。冬は寒いですが夏の少しひんやりとした空気は独特です。最近では、町家造りの建物をリノベーションしてオフィスや喫茶店、民泊施設など、新しい姿に生まれ変わっている町家もあります。



天窓の構造  
冬の明かりをとる



## 雁木

江戸時代、「この下に高田あり」と高札が立てられたほどの豪雪地帯である高田では、冬期間でも人々の往来ができるよう、家の前に張り出した庇である「雁木」が造られました。雁木ができたのは、築城後、城下町が整った松平光長時代以降と考えられています。雁木は、城下町の街道沿いなどの町人町に並び、上越市には現在でも日本一の長さの雁木通りが残っています。雁木は母屋の一部であり、雁木の下は私有地なので、雁木の庇の高さや雁木の下に舗装も一軒一軒異なります。雁木は厳しい雪国の環境の中で作られた互助の精神の象徴である伝統的な建造物と言えるでしょう。

### 造り込み式雁木

雁木の通路部分の上に物置や住居スペースがあるもの。比較的古い形態の雁木と考えられ、近年では数が少なくなっています。



### 落し式雁木

町家のオモテニカイの採光と通風を確保するため、平屋の雁木を母屋に付けたもの。明治以降に造られました。



## 豪雪の様子

近年では少雪の年もありますが、高田は全国でも有数の豪雪地帯であるため、雁木などの町並みが生まれました。



雁木通りがすっぽりと埋まるほどの豪雪（昭和36年1月 本町6丁目付近）  
(上越市公文書センター 提供)



通りが雪で埋まっても雁木の下はこのとおり  
(上越市公文書センター 提供)

三昧町家  
MACHIYA ZANMAI

日本一の総延長の雁木通りが残るまち高田の懐かしく新しい魅力が詰まった雁木通りや町家巡りをしてみませんか。

詳しくはこちら